

北海道開拓から既に1世紀以上。西区でも芽吹く春、爽やかな夏、実りの秋、厳しい冬と、さまざまな12カ月が繰り返されてきました。今月は、そんな西区の歴史の一端を「月」という単位で振り返ってみたいと思います。

西区つぎよみ



合併調印式の様子

《札幌市と琴似町合併》

【昭和30年（1955年）】

琴似町が札幌市と合併したのは昭和30年3月1日のことです。これに前後して札幌市は合併などを繰り返しながら発展を遂げてきました。なお、この際同時に札幌村、篠路村が合併、当時の札幌市の人口は426,620人を数えるまでになりました。平成17年はこの合併からちょうど50周年にあたります。



琴似郵便局（昭和41年）

《琴似郵便局開設》

【明治35年（1902年）】

現在の西郵便局にあたる琴似郵便局は明治35年の2月1日に設置されました。設置当時は郵便受取所という名称であり、郵便を集配しない局でしたが、明治38年に郵便局（三等、無集配）に改称、実際の郵便物の集配は明治43年に初めて行われました。



官立琴似学校（開設当時）

《官立琴似学校開校式》

【明治11年（1878年）】

市立琴似小学校の前身、官立琴似学校の開校式が行われたのが明治11年1月15日、屯田兵入植からおよそ3年後のことです。仮学校（兵舎）の設置は入植と同じ明治8年にさかのぼります。なお、西区内で最も古い小学校は、明治5年5月、現在の宮の沢に三木勉が開設した時習館（手稲東小学校の前身）です。



東西線開業式の様子

《地下鉄東西線開通》

【昭和51年（1976年）】

昭和51年6月10日、新たな市民の足として地下鉄東西線が開業しました。琴似～白石間の9.9キロがゴムタイヤ装備の最新鋭地下鉄で結ばれ、東西南北の交通幹線が整備されました。東西線はその後昭和57年に白石～新さっぽろ間が、平成11年に琴似～宮の沢間が開通し、市民の足として活躍しています。



琴似屯田兵屋（現在）

《屯田兵第一号が琴似に入植》

【明治8年（1875年）】

現在の西区琴似の地に、明治8年5月17日、初の屯田兵となる198戸、965人が入植しました。琴似の屯田兵村は、屯田兵制度の最初から最後まで全期間を経験した唯一の兵村でした。平成17年は屯田兵入植からちょうど130周年にあたる記念すべき年になります。



西区役所（開設当時）

《政令指定都市へ、西区誕生》

【昭和47年（1972年）】

現在の市域がほぼ確定した後、札幌市が政令指定都市として生まれ変わったのは、昭和47年4月1日のことです。同時に区制が施行され、西区も誕生しました。この年4月時点で西区の人口は148,295人、市全体で1,063,780人に達しました。なお、平成元年9月には、さらに手稲区が分区して新たな西区となりました。